

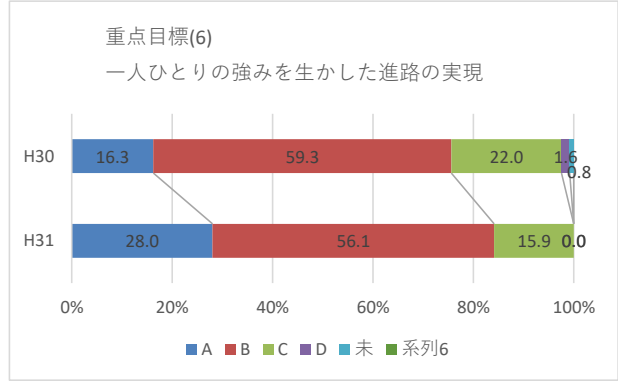
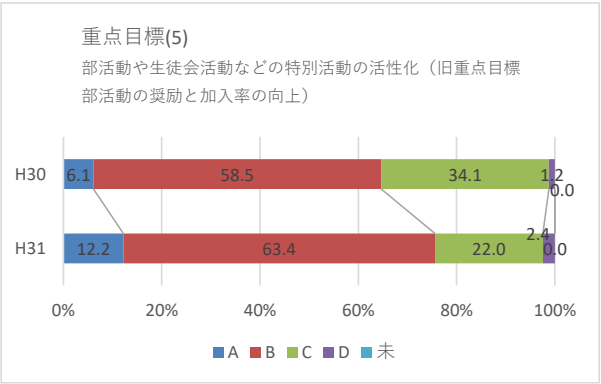
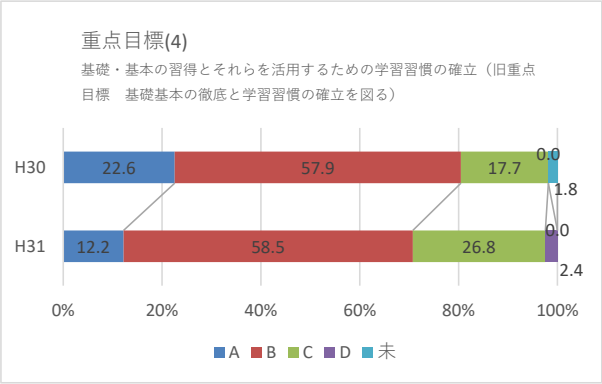
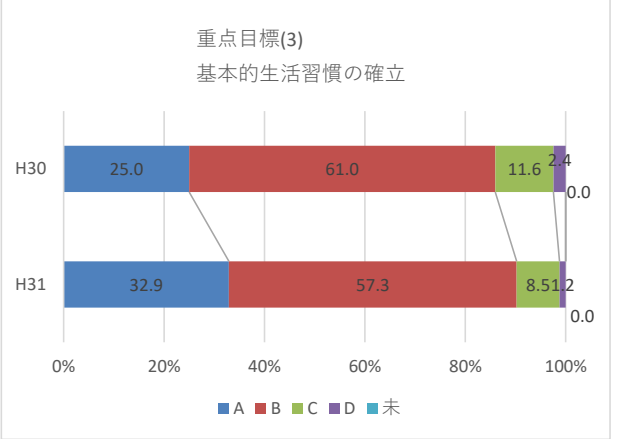
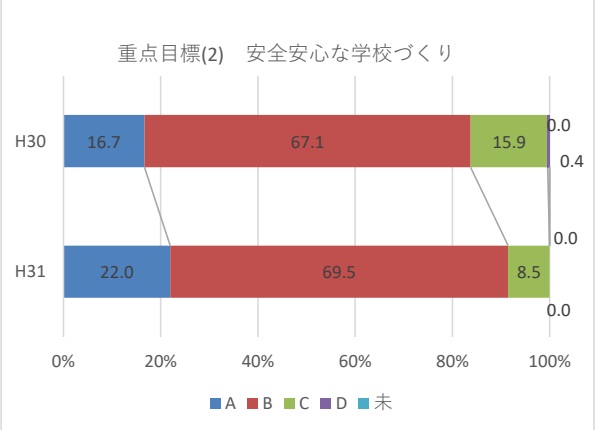
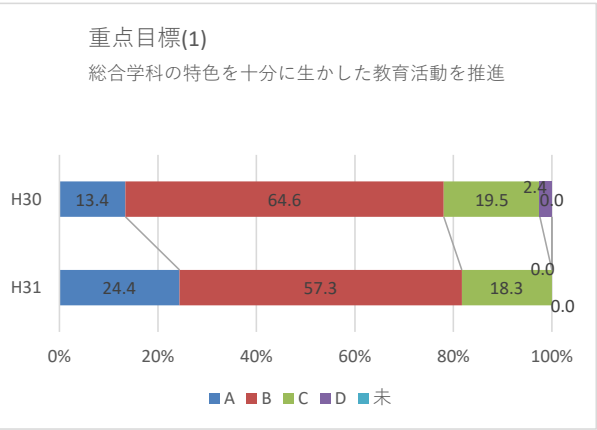
平成31(2019)年度 足利南高等学校 自己評価結果について

調査対象者 41名 提出率 100%

- ・ 具体的方策について『A：達成している』『B：ある程度達成している』の合計が70%以上であれば、自己評価としては目標を達成できていると考える。
- ・ 重点目標 6 項目「総合学科の特色を十分に生かした教育活動を推進」「安心・安全な学校作り」「基本的生活習慣の確立」「基礎・基本の習得とそれらを活用するための学習習慣の確立」「部活動や生徒会活動などの特別活動の活性化」「一人ひとりの強みを生かした進路の実現」の評価項目 12のうち、A・B評価の合計が9項目で80%以上となった。（うち3項目は90%以上）、残りの項目も3項目が50%以上という結果となり、概ね目標は達成されているものと考えられる。
- ・ 重点目標(1)の評価項目2「生徒の希望に応じた科目選択」において、C・D評価の合計が24.4%となっている。科目選択については不十分であったという結果を踏まえ、本校の特色の一つでもある「生徒による進路に応じた時間割作成」の充実を図るため教育課程の抜本的な見直しを検討し、新課程を視野に入れた魅力ある教育課程の作成に取り組んでいく。
- ・ 重点目標(4)の評価項目2「自学自習の充実と学習習慣の確立」では、C・D評価の合計が43.9%という結果となった。家庭学習時間の不足や、学習習慣を確立させるための指導の工夫を今以上に学校全体で取り組んでいかねばならない。自習室の運用・活用に問題があるのは明白で、この問題については根本から見直し、再検討していく必要がある。
- ・ 重点目標(5)の評価項目1「部活動の奨励」の項目では、C・D評価の合計が36.5%となった。部活動加入の問題はここ最近の課題であり、なかなか改善策が見つからないのが現状である。特に運動部への加入者が減少しており、男子生徒の減少もそれに拍車をかけている。学校の努力だけでは改善しきれない問題ではあるが、入部を促す工夫などを次年度以降も模索していく。
- ・ 昨年度の課題の一つであった、重点目標(6)の評価項目 2 項目については、今年度はA・B評価の合計が80%超となった。この結果に甘んじることなく、さらなる進路指導の充実を全職員共通理解のもと取り組んでいくこととする。
- ・ 勤務年数の長短にかかわらず、また校務内容に関わらず公平に評価できるよう、評価項目の内容の精選に努めていきたい。特に新任の先生には本校の総合学科独自の教育活動を理解していただく機会等を設け、それらを踏まえての評価ができるよう改善していきたい。

① 評価項目	② 評価の観点	評価結果（％）				A+B評価 （％）
		A	B	C	D	
重点目標(1) 総合学科の特色を十分に生かした教育活動を推進						
1) 総合学科の特色を生かした授業の実施	・進路ガイダンスやスクールインターンシップ等を実施し、「産業社会と人間」「総合学習Ⅰ・Ⅱ」の授業を充実させる。	39.0	48.8	12.2	0.0	87.8
2) 生徒の希望に応じた科目選択	・時間割作成時に各系列等のヒアリングを充実させ、生徒の進路希望に応じた科目選択ができるよう支援する。	9.8	65.9	24.4	0.0	75.6
重点目標(2) 安全安心な学校づくり						
1) 帰属意識と規範意識の高い集団づくり	・学級、授業、特別活動、部活動において個に応じた役割を果たす機会を設けるなどして集団の構成員としての意識を持たせることによって社会性を身につけさせ、ルールの必要性に気づけるように導く。	9.8	80.5	9.8	0.0	90.2
2) 人権尊重を意識したいじめのない学校づくり	・いじめの未然防止、早期発見のための情報交換を密に行い、調査や面談の実施を定期的に行い、いじめに繋がる出来事やいじめに対して迅速に対応していく。	34.1	58.5	7.3	0.0	92.7
重点目標(3) 基本的生活習慣の確立						
1) あいさつの励行とコミュニケーションの充実	・毎日の学校生活の中で教師側から積極的に挨拶し、なるべく多くの生徒とのコミュニケーションを取るようになっていく。	34.1	53.7	9.8	2.4	87.8
2) ルール・マナーの遵守	・校内及び交通街頭指導や駅周辺での指導などを通して、交通マナー及び公共のマナーの遵守と自転車・バイクの安全運転の促進を図る。	31.7	61.0	7.3	0.0	92.7
重点目標(4) 基礎・基本の習得とそれらを活用するための学習習慣の確立						
1) 基礎・基本の徹底と授業の充実	・「ベーシック」などを通し学ぶ姿勢及び基礎学力の向上を図り、生徒の興味関心が高められるような、生徒にとって魅力ある授業の工夫に努める。	19.5	65.9	12.2	2.4	85.4
2) 自学自習の充実と学習習慣の確立	・放課後等における自習室の活用を促し、個別指導や課外・補習を行うなど学習指導の充実を図り、学習習慣の確立を目指す。	4.9	51.2	41.5	2.4	56.1
重点目標(5) 部活動や生徒会活動などの特別活動の活性化						
1) 部活動の奨励	・部活動の活動方針や活動内容を明確化し、なるべく多くの生徒が部活動に加入できるようにする。	4.9	58.5	34.1	2.4	63.4
2) 特別活動の充実	・特別活動の時間などを通して生徒が主体的・自律的な取り組みが出来るように促し、さらに集団の中の一員として協働・協業ができるような生徒を育成していく。	19.5	68.3	9.8	2.4	87.8
重点目標(6) 一人ひとりの強みを生かした進路の実現						
1) 進路意識の高揚	・「産業社会と人間」「総合学習Ⅰ・Ⅱ」で実施されるインターンシップ及びガイダンス等を通して、早くから自分の進路について考える機会を設け、意識を高めていく。	29.3	56.1	14.6	0.0	85.4
2) 進路情報の収集と活用	・放課後等を利用して、受験報告書の活用や進路相談等を実施し、最新の進路情報を生徒に提供し、進路実現の支援を行う。	26.8	56.1	17.1	0.0	82.9

H31/30 重点目標別比較



⑥改善された点及び課題と改善策

重点目標(1) 総合学科の特色を十分に生かした教育活動を推進		
成果と課題		改善策など
1) 総合学科の特色を生かした授業の実施	タブレットなどの情報機器を十分に活用して充実させることができた。	今年度は課題研究の授業においてタブレットの導入を行った。情報機器と授業の連携が上手くとれたと思われる。生徒の適応能力も高く、総合学科発表会においては全員がパワーポイントでの発表・掲示を行った。時代に合った指導が為されたと思う。今後は課題研究の授業だけでなく、他の授業での活用を広げていきたい。(教務部)
	職業体験等を実施することも可能ではないかと思えます。	就職希望者の数が毎年変動するため、進路行事として組み入れることは現時点では考えていない(進路指導部)
2) 生徒の希望に応じた科目選択	選択科目の精選が必要では	カリキュラムに関しては令和4年度から実施の新学習指導要領を踏まえた新しい教育課程を鋭意作成中である。今回の改訂で学校設定科目の見直しなどを行い、より本校の実態に合ったカリキュラムを作成していく。(教務部)
	時間割作成時のヒアリングが十分にとれない。 時間割作成の前倒しも検討してみる。2年生は6月に予備調査実施後にヒアリング実施してはどうか	時間割作成時にシラバスをもっと活用するようにする。科目の内容や、系列の選択科目などの情報が一冊にまとまっているので早めに生徒に配布し、LHRなどを利用して早い段階から意識付けを行っていく。(教務部)
	複数回ヒアリングを重ねることで生徒の希望を聞くことができた	時間割作成時のヒアリングの充実については、次年度より面談週間が増加するので、その機会を利用して丁寧に実施していく。(教務部)
	科目選択の幅があまりなく、希望する教科を選べない生徒が多い	科目の種類・展開数については教員の定数の問題があるのですぐには改善できないが、各教科で現在展開している科目の内容を見直し、生徒の実態に合ったものへと適宜変更していく。(教務部)
	2年時での授業変更ができるようにしたら生徒の進路について考えられるのではないかと思います。	1年次に進路を見越して2年分の時間割を組ませるという指導を行っている。そうしないといつまでも進路が決まらないからである。時間割作成の時間は十分に取っており、作成時のヒアリングも複数回行っているため、一度決めた時間割を簡単に変更することは認められない。しかし、諸事情により進路先が変更になった場合はヒアリングを重ねた変更に向けての柔軟な指導を行っている。(進路指導部)

⑥改善された点及び課題と改善策

重点目標(2) 安全安心な学校づくり		
成果と課題		改善策など
1) 帰属意識と規範意識の高い集団づくり	説明・指導等に工夫が必要な生徒が増え、ルールの必要性に気づかされたか不安に思うことがある	今後、様々な生徒が増えていくことは否めない。個々の生徒が理解するまで繰り返し説明・指導等行っていく必要がある。(生徒指導部)
	生徒より保護者の意識を変えていく必要性を感じた	さまざまな保護者がいるので、すべての保護者の意識を変えていくのは難しいが、学校の意図する事はしっかりと保護者に伝えていく。また、教師によって伝える内容が変わらないようにする。(生徒指導部)
	挨拶を学校全体で指導していきべきだと思います	生徒への指導も大切であるが、教員からも挨拶を率先してする意識を持つ。(生徒指導部)
2) 人権尊重を意識したいじめのない学校づくり	いじめアンケートの回数を増やし、早期発見に繋げる。SNSでのいじめ案件についての理解を深めるための研修を年に数回取り入れる。現在4月に情報モラル研修を全生徒対象に行っているが回数を増やしてもいいのではないかな。	SNS関係の教室や講話は様々な団体が実施の協力をしてくださるので、全生徒に対する研修、講話の回数を増やすことは可能である。しかし、本校生徒の実情を考えると学年やクラスなどの小規模単位で、実際に生徒自身に考えさせるような研修が必要なのでは無いか？形だけの研修では意味が無いと考える。(生徒指導部)
	情報共有が教師間でできていない部分もあります。	学年単位での報告、連絡、相談を徹底して行ってほしい。(生徒指導部)
	ルールを守ることにしましてはまだ指導の必要性はあると思う(謹慎者が出ていたので)	本校の実態を考えると、ルールを守ることにしまして生徒へ言い続けることは謹慎者が出なくなったとしても必要だと考える。(生徒指導部)

⑥改善された点及び課題と改善策

重点目標(3) 基本的生活習慣の確立		
成果と課題		改善策など
1) あいさつの励行とコミュニケーションの充実	教師側からの積極的な挨拶が不十分	生徒への指導も大切であるが、教員からも挨拶を率先してする意識を持つ。(生徒指導部)
	あいさつはよくできている一方で、交通マナーはもっと力を入れて指導する必要があると思います	交通ルール、マナーについては、全校生徒への諸注意、各ホームルームでは担任から指導を行っているが、今後も繰り返し指導を行っていく。(生徒指導部)
2) ルール・マナーの遵守	事故の件数は減っているがルール・マナーがなかなか守れない	多くの生徒はルール、マナーを守っているが一部守れない生徒もいる。繰り返し分かるまで、指導し続けていく。(生徒指導部)
	街頭指導など行われているが交通事故が起きているのでさらなる指導が必要か	生徒に原因のある事故は減少してきているが、事故に巻き込まれないようにする指導も行っていく。(生徒指導部)
	指導は行っているがやはり交通マナーを守らない生徒がいる	多くの生徒はルール、マナーを守っているが一部守れない生徒もいる。繰り返し分かるまで、指導し続けていく。(生徒指導部)
	8の日交通指導の効果は少しですがあると思います。	PTAの方にも学校の実態を知る良い機会となっているので、連携して今後も8の日街頭指導を行っていきたい。(渉外部)
重点目標(4) 基礎・基本の習得とそれらを活用するための学習習慣の確立		
成果と課題		改善策など
1) 基礎・基本の徹底と授業の充実	できる生徒とできない生徒の差を解消できる授業の実施法を検討すべきだと思いました	生徒の実態に応じながら基礎基本の充実に努める。(例 校内の公開授業などを活用して、授業見学による相互研修等に努めるなど)(学習指導部)
2) 自学自習の充実と学習習慣の確立	自習室の環境整備等	自習室の環境改善を行う。(学習指導部・渉外部)
	より多くの生徒が目標や目的意識をもって学習に取り組むことが出来るように支援する	家庭での学習時間が不足しているので、学習計画を立てさせ、学習時間の確保に繋がる指導を行う。(学習指導部)

⑥改善された点及び課題と改善策

重点目標(5) 部活動や生徒会活動などの特別活動の活性化		
成果と課題		改善策など
1) 部活動の奨励	加入率が低い現状をどうするか。全員加入という形をとっている学校もあるが、本校としてどうするか考えていく必要がある	新入生の部活動加入を促す対策としては、大会結果等をホームページにこまめにアップし、部活動の活動状況をより多く発信していくようにする。（中学生がホームページでの部活動の大会結果等を見て高校選択時の参考としている話も聞いているからである。）（特活部）
	部活動加入の斡旋を行う行事があっても良いかと思います	部活動勧誘のポスターを各部が作成し、新入生及び在校生に向けての募集を活発に行う。（中途入部に寛容に対応する）（特活部）
	もう少し部活動加入率を高められるよう働きかけが必要と感じます	部活動のアピールとして学校祭当日に他校との招待試合を行うなどし、活動の様子を実際に見てもらう。（文化部については学校祭のない年は文化部発表会を行い活動状況を報告している。）（特活部）
重点目標(6) 一人ひとりの強みを生かした進路の実現		
成果と課題		改善策など
1) 進路意識の高揚	2年生の1学期以降全員でスクールインターンシップに参加することがなくなってしまうので、3年生の1学期に希望者だけでも実施出来ないか。進路に迷いがある生徒には参考になるのではないかな。	各年次でオープンキャンパス参加を勧めている。インターンシップの回数を増やすことについては現時点では考えていない。その代わりとして、校内ガイダンスで来校する学校の見直しやガイダンス内容を適宜変更していくなどしてより多くの進路情報を生徒に向けて提供していく。（進路指導部）
2) 進路情報の収集と活用	面談練習や小論文指導を通し、生徒の進路実現の支援を行った。面談練習は全職員が対応するが、小論文指導は国語科のみでの対応となる。年々小論文受験者が増え、個別指導を希望する者が増えてきているので、国語科以外でも指導を行っていただきたい。	教科の垣根を越えて学校全体で取り組めるよう指導の工夫改善を行う。（進路指導部）
	受験報告書のデータ整理が必要では？必要な情報を見つけるのに時間がかかっている	現在年度毎に報告書をファイリングしているが、さらに目次をつけるなどして目的の情報が探しやすいように整理していく。（進路指導部）